

2023

令和5年12月18日

第53号

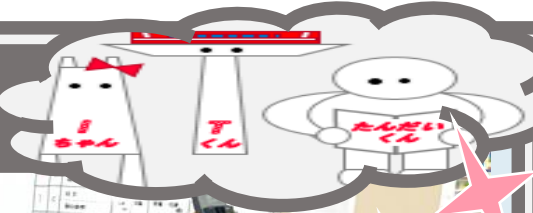
(通算99号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 リアル体験を学びに活かせ



3 ロールプレイの感想



通信障害による模擬記者会見の様子



↑ 謝罪する社長役の学生



↑ 質問する新聞社役の学生

生産管理コース1年生の授業で、模擬記者会見が行われました。学生は4つのグループに分かれ、通信障害に関する新聞記事を読み込み、事故を起こした企業と新聞社の立場に立ち、事故の原因分析や対応、更には想定問答を作成しました。

模擬記者会見(ロールプレイ)は4回行われ、順に1グループが事故を起こした企業役となり、グループ内で役割(社長、副社長、技術、進行)を分担します。残りの3グループは新聞社役となり、社会の目として質問を行います。

スポットライトを浴びながら、通信障害を謝罪する企業役と、「質問ありますか?」の声と同時に手を挙げる新聞社役とが、臨場感ある雰囲気を作り出していました。学生の感想は右欄に挙げました。

リアルな体験が深い学びとなっています。この後、全ての1年生が体験していきます。

講座「ITリーダーのための新聞活用トレーニング」では、大規模通信障害に関する新聞記事を読み込み、企業と新聞社に分かれ模擬記者会見(ロールプレイ)を実施しました。

<記事> 新聞各紙(2022年7月3日)

通信障害 異例の長時間 他

感想

●鬼沢昇吾さん(水戸南高卒)
IT技術の社会への影響をじっくり考えることができた。

●飯島喬仁さん(勝田工高卒)
普段、体験できないことをリアルに近い形で体験することができていい経験となった。

●飯村寧音さん(水城高卒)
役割を与えることで、それぞれの視点から考えや意見を出すことができたと思う。新聞社側になった時、必要な質問をするのが難しかった。

●小原大地さん(水戸農高卒)
これからの人生、就職してどのような立場になるかわからないが、今回のこの模擬記者会見を通して責任感というものを肌で感じる事ができました。

●小野瀬あゆさん(那珂高卒)
ただの座学では得られない緊張感を得つつ、質疑応答への対応方法など学ぶ事ができました。

●菊池琉雅さん(勝田工高卒)
記事を読むだけでなく、実際にその立場に立つことで、自分事としてより具体的な考えを持つことができる体験となりました。

●藤巻日々花さん(佐和高卒)
ロールプレイでは、グループでどのような原因があり、これからどのように対処すべきなのか、IT技術者として大切なことを一緒に考えることができた。

●金子翔悟さん(水戸工高卒)
事故に対しての考え方やこの状況からの対応など、立場における見方考え方があることに気づきました。



2 市民会館から世界平和を祈念



「WORLD PEACE」ボードに立つ井上館長(右)さんら



↑ 水戸市民会館



↑ 制作した本校学生

12月13日(水)、水戸市民会館に、県立水戸工業高校と県立つくばサイエンス高校の1年生が制作した「社会の安全・安心への提言」パネル8枚を掲示した「WORLD PEACE」ボードが設置されました。制作には本校システムコース二年の増山すみれ(水戸商卒)さんが協力しました。

ボード中央は黄と青でデザインされ、左右に両高校のパネルを掲示しました。ボード設置後に井上館長さんらも訪れ作品に見入っていました。

今月13~27日の間、水戸市民会館に展示されます。

